

第1回 南阿波定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議要旨

【日時】

平成28年7月8日（金） 午後2時から午後4時まで

【場所】

阿南市文化会館 研修室1

【出席者】

出席委員：岩佐健司委員、尾田信義委員、笠原まり委員、株田茂委員、川尻竹藏委員、川人建介委員、久米良久委員、近藤光男委員、齋藤郁雄委員、酒井勝利委員、篠原敏文委員、庄野二六委員、竹内昭文委員、鶴和正浩委員、長谷宏昭委員、濱田勝幸委員、枡富治委員、湯浅眞智子委員、渡邊幸江委員（19人）

欠席委員：荒井義之委員、上杉豊久委員、江本友昭委員、岸彰委員、原田玉江委員、見吉政貴委員（6人）

オブザーバー：小泉徳島県南部総合県民局長、柏原徳島県南部総合県民局主任、磯野美波町総務企画課長、長岡美波町総務企画課主査、宮内牟岐町総務課長、北村海陽町まち・みらい課主査

阿南市：岩浅市長、打樋企画部長、松田防災部長、鈴江市民部長、水口保健福祉部長、坂本産業部長、原田建設部長、篠岡特定事業部長、亀尾水道部長、高島教育次長、久積消防長、松内企画政策課長、新居企画政策課事務主任

1. 開会（事務局）

- ・午後2時開会

2. 阿南市長あいさつ（岩浅阿南市長）

（岩浅市長あいさつ）

- ・県南各地より御参加いただき、また就任を御快諾いただき御礼申し上げる
- ・本日発足するこの懇談会に県南住民の命運がかかっている、それだけの大切な意義の深い会と位置付けている
- ・平成24年度から、阿南・那賀・美波の1市2町の枠組での共生ビジョンで掲げられた事業を推進しているところであるが、本日の会議において、牟岐町と海陽町を加えた「南阿波定住自立圏」として、平成29年度からの新たな5年間の事業計画の素案を提示する
- ・多くが現行ビジョンでの取組を圏域を拡大して実施するものだが、「遍路道を活用した観光振興」や「産官学連携」などの新しい要素も盛り込みながら、圏域全体の住民福祉の向上及び地域振興のため、1市4町が一体となって取り組んでまいる所存

- ・徳島県南部総合県民局長をはじめとするオブザーバーの方々にも御参加いただき、委員の皆さまも様々な観点から忌憚のない御意見を賜りたい

3. 委嘱状の交付（岩浅阿南市長）

- ・出席委員に岩浅阿南市長から委嘱状を交付

4. 委員等自己紹介

- ・出席委員、オブザーバー及び阿南市出席者による自己紹介
- ・欠席委員の報告

5. 会長及び副会長の選任

- ・会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、委員の互選により、徳島大学大学院教授の近藤光男氏に決定

（近藤会長あいさつ）

- ・1市2町の懇談会に引き続き、御推挙いただいたが精いっぱいやらせていただく
- ・地方行政に関しては、人口減少や少子高齢化、社会基盤の維持・管理コストの増大など、広域行政の必要性・重要性がさらに高まっており、今回圏域を拡大して「南阿波定住自立圏」を新たに推進することは時代にマッチしている
- ・今回は第1回目の共生ビジョン懇談会であり、それぞれの分野や地域を代表される委員の皆さまより、ビジョンの素案に対し忌憚のない意見をいただき、全国から素晴らしいと言われるような自立圏を形成できるよう御協力いただきたい

- ・副会長については、懇談会設置要綱の規定に基づき、近藤会長の指名により、阿南工業高等専門学校副校長の岩佐健司氏に決定

6. 議 事

（1）定住自立圏構想の推進について（事務局説明）

<質疑応答>

特になし

（2）南阿波定住自立圏共生ビジョン（素案）について（事務局説明）

<質疑応答>

（ 委 員 ）

消費者センターについて、全市町村に設置することが望ましいと考えるが、経費面で困

難であることから、1市4町共同のセンターを設置してみてもどうか。県の相談窓口も8人体制で土日受付しており人手不足。それを補う意味でも自治体で自前のセンターを作ることはできないか。

(担当者部会)

阿南市の消費生活センターは嘱託職員3人で運用している。年間350～400件の相談があり、相談受付や報告など大変な業務量となっている。共生ビジョンの取組において、中心市のセンターを圏域で活用していくこととしているが、相談受入の体制作りはまだまだこれからというところもある。中心市である阿南市のセンターを活用しながら、別に共同で組織を設置することが可能となれば非常に有効であると考えているが、かなりハードルが高い。各市町の消費者行政担当及び消費者協会、徳島県とも連携し、今後の検討事項としたい。

(委員)

現在徳島県内の観光客は、関西方面から来られる方や徳島空港を利用される方が多く、鳴門市や徳島市が主たる観光先となっている。その方々が次に行く観光地は、西と南に分かれることとなるが、最近増えつつある外国人観光客が西の方へ行ってしまふことが非常に多いことから、できる限り県南に足を運んでいただけるような、パンフレットを作るなどの政策を検討していただきたい。阿南市に観光客が来ることによって、周辺地域も潤うものと考えている。

(会長)

昨今の外国人観光客の増加は地方にとって大きなチャンスである。定住自立圏として具体的に検討できる取組の一つではないか。

(事務局)

遍路道を廻る外国人観光客が増加傾向にある中、外国人向けの標識等の整備などは懸案であり、南阿波定住自立圏共生ビジョンの新規事業として、遍路道等を活用した観光振興を予定しており、その中で対応が可能か検討したい。

(担当者部会)

歩き遍路が年間5千人まで増加し、外国人観光客も増加しているとのこと。ただ廻るだけではなく、遍路道の歴史的な価値などに興味を持っている。世界遺産登録への取組もあるが、阿南市はかも道等、加茂谷地区を中心に太龍寺と平等寺を結ぶ遍路道などの保全に住民団体も熱心に取り組んでおり、パンフレットなども積極的に作成している。今

回1市4町での新たな取組の1つとしているが、例えば那賀町にはロープウェイや鷲敷から平等寺に続く道もある。牟岐町から海陽町の八坂八浜にかけても魅力的な遍路道があると聞いており、今後は南阿波全体で遍路道のパンフレットの作成や、イベントを開催するなどお遍路さんや外国人観光客に向けたPRや情報発信につなげてまいりたい。

（ 委 員 ）

最近外国人がテレビによく出ており、日本のマニアックな情報も収集していることがわかる。これらの情報は主にインターネットで得ているとされていることから、観光協会などで共同でホームページを作り、そこで自分たちの良いところ広く知ってもらうための情報を提供するといいいのではないか。

※質疑以外にも、現在実施中の婚活事業や、過去に実施した防災をテーマに取り入れた婚活事業の事例紹介や情報交換（提案）があった

（ 会 長 ）

説明のあったスケジュールでは、8月上旬までパブリックコメントを実施することとなっている。今回は共生ビジョンの素案として、かなり多くの取組説明があった。パブリックコメント期間中、委員が新たにお気づきの点などがあった場合の対応は。

（ 事 務 局 ）

次回の懇談会開催までにできる限り、御意見等お受けしたいと考える。

（ 会 長 ）

内容がかなり豊富だったということで、8月初旬の幹事会を考慮し、7月末を目途に意見等を受け付けることでどうか。

（ 事 務 局 ）

事務局並びに各町の定住自立圏担当課に御意見等いただければ。本ビジョン策定後についても、計画期間が5年あるので、参考として御意見やアイデアがあればいただきたい。

（ 会 長 ）

5年間という長い期間の計画だが、制度変更等や必要性の検証など、ビジョンの見直し等はどのようにしていくのか。PDCAのサイクルで実施するのか。

(事務局)

共生ビジョンの前提として定住自立圏形成協定がある。議決を経て協定を締結していることから、協定事項を取り組まないという事は難しいと考えるが、ビジョンは随時見直すことが可能であるため、検証の結果見直すことはありうる。協定も議決を経れば変更は可能であり、検証した内容を蓄積していく仕組み作りが必要である。

(会長)

今後も懇談会の役割としては、協定に規定された範囲で共生ビジョンの内容について検討していく。

7. その他

- ・第2回の開催予定について事務局から説明

日時 平成28年8月19日(金) 午後2時から

場所 未定

8. 閉会

(近藤会長あいさつ)

- ・これから気持ちを新たに、人々が気概をもって、安心して笑顔で暮らせる地域づくりのため、ひいては地域経済等の発展のため、この南阿波定住自立圏構想を推進していくこととなるが、皆さんの協力があってこそ成り立つものであり、今後ともよろしくお願ひしたい

(小泉徳島県南部総合県民局長あいさつ)

- ・今回圏域が1市4町となり、南部総合県民局の所管地域が一致することとなった
- ・南部圏域の地域振興計画と定住自立圏共生ビジョンの整合性を図りながらお互いに連携して進めてまいりたい
- ・これまでも、定住促進としては若者創生協議会、観光等の振興として魅力倍増推進協議会などを設立し、県や市町、商工会、観光協会等と共同して事業を進めている
- ・今後も県と市町が歩調を合わせながら一緒に協力してやってみよう